平成28年度第1四半期実績評価

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

第1四半期の観覧者数は、上映事業、展示事業ともに過去最多の来館者数を記録した。好調であった前年同期の来館者数を更に大幅に上回り、展示事業では前年同期比57%増、上映事業でも18%増となった。

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・通常の設備保守・点検等が適切に実施されている。
- ・館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。
- ・板塀が1枚外れ落下した際には、速やかに撤去した上で市へ報告し、迅速に修復を行った。

● 資料等の維持管理

- ・施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・事業計画どおり、通常展や映画事業を実施している。
- ・展示事業では、原節子氏の訃報を受けて「映画女優 原節子展」を前年3月から継続して開催しており、偉大な女優・原節子に思いを馳せる場を提供した。
- ・上映事業では、企画展に関連し邦画が続くことから、ゴールデンウィーク中に『GWシネマ・セレクション』と銘打ち洋画を上映するなど、バラエティに富んだ作品を鑑賞できる機会を提供した。
- ・市民要約筆記団体「あ・うん」と協働でバリアフリー上映（音声ガイド・日本語字幕付上映）を実施し、映画を見る機会が少ないと思われる視覚・聴覚障害者が映画鑑賞を楽しむことのできる機会を提供した。
- ・新規事業として実施した「劇団かかし座との3日間」の一環として、市民団体である鎌倉アカデミアを伝える会と協力し、影絵専門劇団「かかし座」の影絵短編作品や劇団かかし座を追ったドキュメンタリー映画を上映するなど、影絵に触れる貴重な機会を創出した。

● 調査、研究及び情報提供

- ・7月以降に開催する展示事業等に係る調査及び研究を実施した。
- ・映画関連資料の調査及び研究や、国立フィルムセンターをはじめとする関係機関や施設との情報交換等を行い、最新の映画関連情報の収集に努めた。
- ・情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。また、映画上映時に配布している各作品の概要をまとめたリーフレットを綴じたものを配架し、誰でも手に取って見られるように整えた。

● 広報及び宣伝等

- ・市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載している。さらに、庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等へ情報を提供した。
- ・チラシの配架及びポスターの掲示等によるPRにより記念館の広報及び宣伝等に努めた。
- ・6月に開催された校長会において、夏休みの子供向け事業についての周知を行った。

● その他の事業

- ・「劇団かかし座との3日間」を開催し、親子で影絵人形を製作する親子影絵教室を実施したほか、劇団かかし座を追ったドキュメンタリー映画「影たちの祭り」の監督及び劇作家によるトークイベントを開催し、当時の「鎌倉アカデミアの会」についてなど、貴重な話を聞くことのできる機会となった。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
4月分:5月13日、5月分:6月14日、6月分:7月14日提出
- ・利用者からの声に対しては迅速に回答し、対応が必要な事項については可能なものから管理運営に反映している。

● 事故・苦情対応

- ・事故・苦情はなし。

● その他

- ・第14回鎌人いち場に参加し、映像玩具を作る子ども向けワークショップを行うなど、親子層へのアピールに努めた。
- ・ブックカーニバルinカマクラ2016に参加し、川喜多映画記念館学芸員が本談会の講師を務めた。
- ・鎌倉市観光協会主催ツアー及び鎌倉ガイド協会主催ツアーに協力し、ツアー参加者に展示解説や旧和辻邸の案内を行い、記念館の魅力をアピールした。

5 全体評価

- ・第1四半期の来館者数は、展示事業・上映事業ともに過去最多となった。注目が集まりやすい開館初年度の第1四半期を上回る人数に来館していただけたことは、大いに評価できる。来館者増の主な要因としては、知名度が高く、鎌倉ゆかりの大女優である原節子の訃報を受け開催した特別展ということで、テレビ番組や新聞等、メディアの取材を多く受け、広く周知できたことが挙げられる。また、その外部的要因に甘んずることなく、鎌倉ガイド協会及び鎌倉市観光協会が実施するツアーへの協力や鎌人いち場で親子層へアピールするなど、積極的な広報活動及び集客への努力が実ったものと考えられる。一方で、市民団体と協働で開催した「劇団かかし座との3日間」では、上映の来館者数が伸び悩んだ。影絵という馴染みのない分野の作品であったためと考えられるが、今後このように馴染みのない作品を上映する際には、早い段階からの広報活動等に努めてほしい。第1四半期の好調な流れに乗って、第2四半期以降も、積極的に市民団体等と連携し、挑戦的な姿勢で事業に取り組んでもらいたい。
- ・施設の維持管理などの業務に関しては、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

平成28年度第1四半期判定評価表

評価項目	判定点	第1四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%